

教育サポート報告

北越 正生

【概要】

内 容：植樹
日 時：平成 17 年 10 月 28 日 13 時～
会 場：札幌聖心女子学院・校庭
対 象：中学 2 年生（約 45 名）
講 師：北越 正生

【背景】

昨年秋の台風 18 号の影響で、学校内の多くの樹木が倒木などの被害を受けました。学校から「父の会」を通して相談があり、教育の一環として植樹の計画を推し進めることになりました。

昨年度は「父の会」の役員有志で、校内や近隣からの種子（ドングリ）を集め、ポット苗づくりを行っております。（それにつきましては 昨年の分科会で報告してあります）その後 学校の協力の下で発芽した苗の生育管理を行っていただいております、約一年間を経て、生育した苗を校庭に植樹することになった次第です。

【植樹の進め方】

1) 事前の準備

植樹場所の選定・・・校庭内に植樹可能な場所を学校と協議して選定（3カ所）しました。

グループ編成・・・植樹場所が3カ所に分かれているため、3グループに分割して、さらに 作業単位として 2～3人で1班の編成としました。

種子集め・・・継続的な植樹ということも考えておりましたが、ポット苗が不足していたこともあり、直に種子（ドングリ）を播いて 比較観察することになりました。

2) 当日の進め方

資材の準備・・・ポット苗、種子、スコップ、移植ごて、軍手等
植樹の説明・・・植樹の仕方について実演をしながら説明しております。

植樹・・・・・・それぞれの植樹場所に移動して植樹を行っております。

【感想】

昨年秋から種子集め、ポット苗作り、苗の生育管理を行ってきて、植樹に至りました。

私も初めての体験で、いろいろと教わったり、調べたりしながらの実践でした。その中で気が付いたことをいくつか紹介したいと思います。

種子集め

種子は学校の近くにある円山公園のドングリ（重量級種子）にしました。ドングリを採取する場合、中に虫が入っていることが多いので、採取した後でバケツに水を入れた中にドングリを入れて、浮いたドングリを除くそうです。

昨年、今年とドングリ集めをしましたが、たまたま今年は風の吹いた翌朝に拾いに行ったため、虫食いのドングリは極めて少なく、考えてみると当たり前のことですが、種子集めもタイミングがあることがわかりました。

種子の種類

今回は3種類のドングリを採取しましたが、種の特定に悩みました。図鑑で調べましたが、もう一つ自信が持てなく、妻に森林管理署に持って行ってもらい、いろいろと調べてやっと特定することができました。その際に木の写真や葉も一緒にあると特定しやすいことも教わりました。

ポット苗作り

北海道工業大学の岡村先生と付き合いがあり、先生が提唱している生態学的混播法の資料を参考にさせていただきました。

さらに実際に手掛けている方に事前に指導を仰いで、ポット苗作りを行いました。当日校内からも種子を集めたため用意したポットが足りなくなり、発泡スチロールに直に播いたりしました。

苗の生育管理

ポット苗は学校内に置いてありますので、日常的な管理は学校にお願いすることになりました。自宅にも試験ポットを用意して同じような管理して生育状況を観察するようにいたしました。

実際に自分で育ててみると生育に関心を持つようになり、また愛着も覚えるようになり、身近で簡単にできることなので、子供が小さいときにこのような体験をできれば良かったと思っています。

植樹

ポット苗、直播きの苗を合わせると 100 本くらいの苗が生育しており、生徒一人あたり 2 本くらいの植樹になりました。今年 採取した種子（ドングリ）も直に播いてみて、観察することになりました。

バッタやミミズを見て大きな声をあげる生徒や平気で捕まえてしまう生徒、自分流で植樹をする生徒や一つ一つ確認をしながら植樹する生徒、とにかく賑やかな体験授業になりました。

昨年 一緒にポット苗づくりをした父の会役員の一人が不幸にも今春他界され、その人のお子様がいる学年の授業になり、奥さんも参加されておりました。お子さんが何日も前から植樹を楽しみにしておられこと、お父さんが植えられた種からできた苗を一生懸命に植樹されていたことを後の懇談で伺いました。

もちろん ひとりひとりの心の内は思いやることはできませんが、一人でも心待ちにしていた人のいる授業のお手伝いをさせていただいたということで、自分の心も温かくなるのを感じました。



生徒が植樹をしている様子